

# よえもん

論語から学ぼう

(記念館の玄関前に掲示しています)



《 第55号 》 (2018年度)

(第31回記念館小企画展から)  
大洲における中江藤樹

シリーズ  
よえもん

大洲には、藤樹先生の屋敷が二つありました。その一つは、祖父、吉長のものと伝えられ、現在の大洲小学校の庭にありました。青柳小学校から送った藤樹書院の藤の一株もみごとに育ち、毎年美しい花を咲かせています。また、藤樹先生の少年像もたてられ、子ども達に親しまれています。

もう一つの屋敷は、藤樹先生が十五歳で元服した時、祖父と別れて住んだといわれるもので、現在の大洲高等学校の一角にありました。ここには、先生の昔の住まいをまねてたてられた「至徳堂」があり、この裏には「中江の水」という先生が使っていた井戸が残っています。



大洲小学校の少年像と藤



至徳堂



中江の水 (井戸)

「論語」雍也第六

女君子の  
為れ  
小人の  
為らざらん

書 渕田瑞穂さん

「志が大きく徳の高い学者になりなさい、単なる物知りや地位や名誉を求めだけの学者になってはいけない」という意味です。言い換えると、自分を磨き、世のため人のために役立つ学びをなささい。自分を人に良く見せるための学びをすべきでないということです。

人は、偉くなりたい、有名になりたいという欲求が強いといわれていますが、自分を高め、多くの人役に立つことを目指すべきであると言えます。

## \* 記念館だより \*

桜がきれいに咲き春らしくなりましたが、少し肌寒い日が続いています。今年度も、3人が引き続き勤めることになりました。よろしく願い申し上げます。

3月からはじめました企画展には、大洲高校の先生や大洲城藩主の加藤家にゆかりのある方なども来られ、大洲の人々の中江藤樹への思いや現代の加藤家の状況などを聞かせていただく貴重な機会となりました。



記念館小企画展より

近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330